

## ジェンダー平等に向けた グローバルな展開

3月8日は国際女性デー。今年のテーマは、「持続可能な明日のために今日のジェンダー平等を！」です。最終回では、国立女性教育会館（NVEC）の国際事業と関わりが深い、国連女性の地位委員会（CSW）についてご紹介します。

NVEC が取り組む男女共同参画の推進は、すなわちジェンダー平等と女性のエンパワーメントとして掲げられている国際社会共通の目標です。毎年3月はジェンダー平等に向けて重要な国際会議である国連女性の地位委員会（CSW：Commission on the Status of Women）が開催されます。

CSW は、1946年に国連経済社会理事会に設置されました。CSW が1975年にメキシコで開催した第1回世界女性会議は、国連を中心に世界各地で女性の地位向上に向けた機運が飛躍的に高まる契機となります。日本政府もこの流れを受けて、女性の地位向上施策を推進する部署を設置し、国内行動計画を決定します。1977年には、国立婦人教育会館（現NVEC）も、学びによる女性のエンパワーメントを目的とした拠点施設として開館しました。NVECの初代館長は日本政府のCSW代表を務めております。

1995年の第4回世界女性会議（北京）では、各国が優先的に取り組むべき重大問題領域を「北京行動綱領」として採択しました。貧困、教育、健康、暴力、武力紛争、経済、意思決定、制度的仕組み、人権、メディア、環境、女兒らの12分野におけるジェンダー平等の達成状況を討議するのが、毎年3月にニューヨークの国連本部で開催されるCSWの加盟国会議です。約2週間の会期

中は、大臣級を含む政府代表団、国際機関、NGOリーダーなど毎年千人を超える人々が世界各地から集まり、合意結論に向けた議論や交渉、ロビイングが展開されます。CSWでの議論は各国の政策にも影響を与え、施策や計画に取り入れられます。NVECでは毎年職員を政府代表団の一員としてCSWの会議に派遣し、情報収集と国際的なネットワークの構築に努めてきました。その成果は国内リーダー層研修や全国フォーラムという形で発信しています。



特に国連では近年、ユースの参画を熱心に呼びかけており、CSW の会期中には国連事務総長や UNWomen 事務局長と 10 代から 20 代の若者が直接対話するセッションも行われています。各国の政府代表部や NGO が協力して、サイドイベントと言われるセミナーも開催され、「女性ジャーナリストや議員に対する暴力」「10 代の抱える悩みにどのように対応するのか」「性的搾取を目的とした人身取引の問題」「移住労働者の安全」「デジタルジェンダーギャップ」など地球規模のテーマが取り上げられます。最新の調査報告も交えながら、各国の議員や専門家、NGO、国際機関が登壇し、世界中の最新情報や先進事例を学ぶ絶好の機会となっています。会場には春休み中の学生も多く、英語、スペイン語、フランス語など各国の言語が飛び交います。女優のエマ・ワトソンが呼びかけた HeForShe キャンペーンが有名ですが、国連は男性や LGBTIQ+ を含むあらゆる人々が協力してジェンダー平等に取り組もうと呼びかけています。CSW にも政府代表者はもちろん、市民社会組織から多くの男性が参加するとともに、CSW で取り上げられる問題があらゆる人にとって重要なテーマであることが共有されます。

3 月 14 日から始まる CSW 第 66 会期のテーマは、「気候変動および環境・災害リスク削減に関する政策・プログラムにおけるジェンダー平等とすべての女性・少女のエンパワーメント達成」です。気候変動や地球温暖化などの環境危機や災害は、男女に異なる影響を及ぼし、時には社会に潜在しているジェンダー不平等を一層拡大します。会議では気候変動や災害による被害に対して回復力のある「レジリエントな社会」を形成するために不可欠な、ジェンダーや多様性の視点について議論されます。2020 年以降はコロナ感染の拡大で、国連本部での公式会合は縮小されていますが、CSW への市民社会組織の参画を支援してきた国際団体“NGO CSW NY”は、昨年初めて世界中の人々が集うバーチャル空間としてオンラインプラットフォームを立ち上げました。NWEC では、昨年に引き続いてバーチャル展示ブースを設置し、女性や女兒の教育を通じたエンパワーメント、災害におけるジェンダー視点の重要性や女性に対する暴力、男性やユースからの有識者メッセージを発信します。コロナ禍においてジェンダー課題へ対応していくために多様な主体の連携がますます重要となる中、国内外の諸団体・個人と交流・連携しながらジェンダー平等の実現に向けて取り組みます。

(渡辺 美穂／独立行政法人国立女性教育会館 研究国際室長 主任研究員)

